

紙版 ハコブネ×ブックス vol 47

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



人魚に嘘はつけない

作者 半田 暁
出版社 一迅社
発行 2017年7月
ISBN 978-4758049689

review



海辺の町に暮らす高校三年生の男子、朝月（あさつき）は、特に進路の希望がないながらも、磯臭いこの町が嫌で、父親と同じ漁師には絶対にならないと心に決めていました。そんな折、朝月の父親は海で子どもを救助しようとして行方不明になりました。父親に素気無く接していたことを後悔しながら浜辺を歩く朝月は、海から流されてきた行き倒れの少女を見つめます。これが父親が救おうとした子なのかと思いきや、その下半身が魚であることに朝月は驚きます。人間に擬態でき、言葉を理解する、さらには口の減らない**気な人魚**、ユーユと朝月は暮らすことになりました。人間の嘘を見抜く力のあるユーユは、裏腹なことを口にしがちな朝月や彼の友人たちの本当の気持ちに言い当て、彼ら自身も気づいていない本心と向き合わせて、その背中を押してくれるのです。

特集

海にいてるのは……

人魚の夏



作者 嘉成晴香
出版社 あかね書房
発行 2021年7月
ISBN 978-4251044808

review



母親の友だちだという海野春と名乗る人魚から、今度、学校に転入する自分の子どもと仲良くして欲しいと頼まれた小学五年生の男子、千里（ちさと）。転入生である海野夏（なつ）は、男子とも女子ともわからない美しい容姿をした子でした。自然体でノンキに過ごした夏のかたわら、夏が人魚だという秘密を守りぬく千里は緊張感を募らせます。夏が人前で歌わないのは、人魚が歌うと雨や嵐を呼んでしまうから。その理由を千里は合唱コンクールに向けて練習を続けるクラスで説明することはできないのです。からも夏を守り続けた千里でしたが、コンクールの大会当日、観客は夏の澄みきった歌声を耳にするのになりました。異質な存在を大らかに受け入れることができるのか。抒情的な美しい光景の中で描かれる、人魚という存在にこめられたものを考えさせられます。



夏の約束、水の聲

作者 椎名寅生
出版社 新潮社
発行 2023年7月
ISBN 978-4101802688

review



住民すべてが顔見知りという小さな島に暮らす中学三年生の男子、辰巳（たつみ）。この夏休みも家族で営む民宿の手伝いをする辰巳が、棧橋で出迎えたお客さんは、自分と同一歳の女子、沙織（さおり）でした。両親の不仲に心を傷めて、家出をしてきたという沙織。都会育ちの可憐な少女に、どう接して良いのか分からず辰巳は戸惑います。月明かりの下、岩礁にくつろぐ人魚の姿を見てしまった二人は、本能的に危機を感じたものの逃げることもできず、沙織はすでに呪いをかけられていました。沙織を救うには再び人魚に会って、交渉しなければなりません。自分の身を代償にして投げようというにも、それだけの価値が自分にあるのかと辰巳の気持ちは沈みます。自分に自信のない気弱な辰巳の心のうちを言い当てる手ごわい人魚に、覚悟を決めて少年は挑んでいくのです。

かすみ川の人魚



作者 長谷川まりる
出版社 講談社
発行 2021年11月
ISBN 978-4065257586

review



小学五年生の男子、大賀（たいが）が、学校近くの汚い川で見つけたのは、体長七〇センチほどの奇妙な生物でした。魚の胴体の先に人間の上半身がつかっているこの生き物は、きれいな顔立ちをしているものの言葉も話さず、ただじろりと人を見つめるだけ。川の名にちなんで、かすみと名づけたこの生き物を、大賀は友人の千秋と一緒に、近くの山の人の気のない池で匿うことにします。研究所から逃げた実験動物なのか。それともなにか神秘的な生物なのか。判然としないまま、次第に変化していくこの生き物を、ちゃんと確かめようと池から出そうとした時、千秋に危機が訪れます。不老不死の妙薬になるといいう人魚の伝説。回想の中で紐解かれる子ども時代の曖昧な記憶と、大人になった大賀はどう和解したのか。幻想的で不可思議な事件が怜悧に考察され、霞がかかった子ども時代がここに捉え直されます。

特集

海にいてるのは……



人魚姫の町 (柏葉幸子) 講談社 2023年



@tomostretch

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.47

2024年8月1日発行 ● 発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。

旧 Twitter 連携しています。